

第26回「化学物質と環境円卓会議」

**身近にある化学物質に関する
世論調査の結果**

平成22年8月31日

環境省環境保健部環境安全課



1

調査概要

1. 調査実施主体

内閣府政府広報室

2. 調査対象

- ・ 全国20歳以上の者 3,000人
- ・ 有効回答数 1,942人（回収率64.7%）
- ・ 調査期間 平成22年6月17日～27日
（調査員による個別面接聴取）

3. 調査項目

- （1）身近な化学物質に対する意識
- （2）化学物質に関する取組についての意識
- （3）化学物質に関する情報についての意識
- （4）国内実施計画策定への参加意向
- （5）開発途上国への日本の協力

2

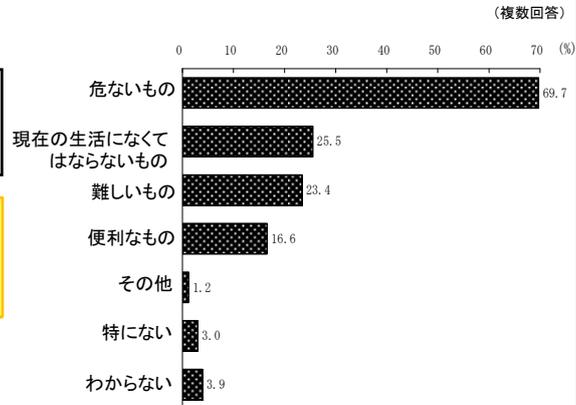
1. 身近な化学物質に対する意識

○「化学物質」という言葉の印象 (参考資料 P3, P25)

「化学物質」という言葉について
 どのような印象を持っているか

第1位:「危ないもの」(69.7%)

第2位:「現在の生活になくては
 ならないもの」(25.5%)



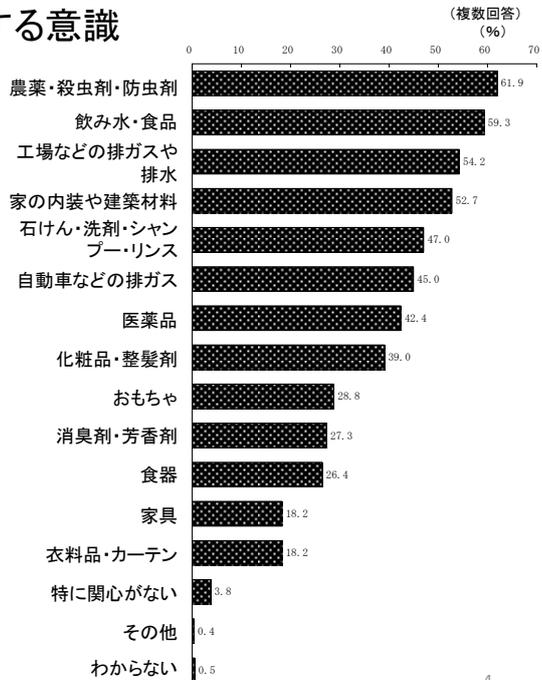
1. 身近な化学物質に対する意識

○化学物質への関心 (参考資料 P4, P26)

日常生活において、どんなもの
 に含まれている化学物質に関心があるか

第1位:「農業・殺虫剤・防虫剤」
 (61.9%)

第2位:「飲み水・食品」
 (59.3%)



1. 身近な化学物質に対する意識

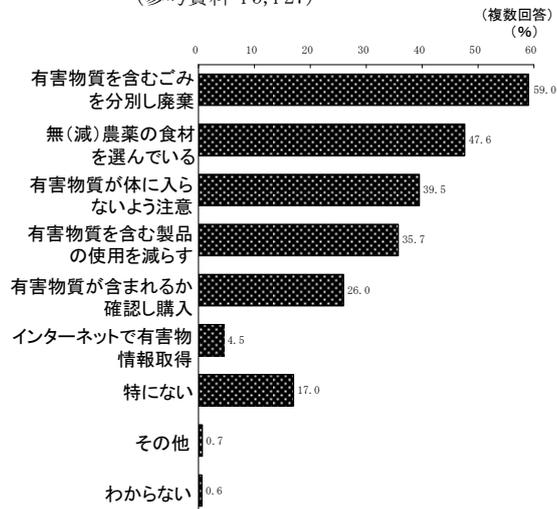
○普段の暮らしの中での化学物質に関する取組

(参考資料 P5, P27)

普段の暮らしの中で、身近にある化学物質に関連して、どのような取組を行っているか

第1位:「有害物質を含むゴミを分別し廃棄」(59.0%)

第2位:「無(減)農薬の食材を選んでいる」(47.6%)



1. 身近な化学物質に対する意識

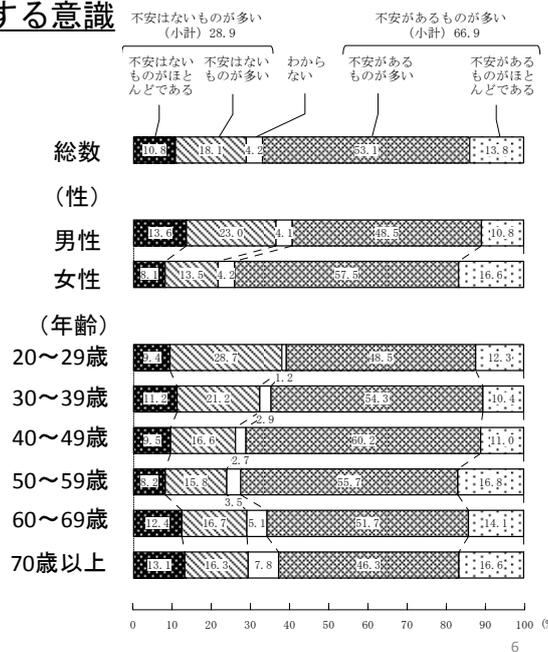
○化学物質の安全性に関する意識

(参考資料 P6, P27)

身近にある化学物質の人の健康や動植物に対する安全性についてどのように感じているか

○身近な化学物質の安全性に、回答者の約7割が不安
 (「不安があるものが多い」(53.1%)、「不安があるものがほとんどである」(13.8%))

○男性(合計59.3%)より女性(合計74.1%)の方が不安と回答した人が多い。

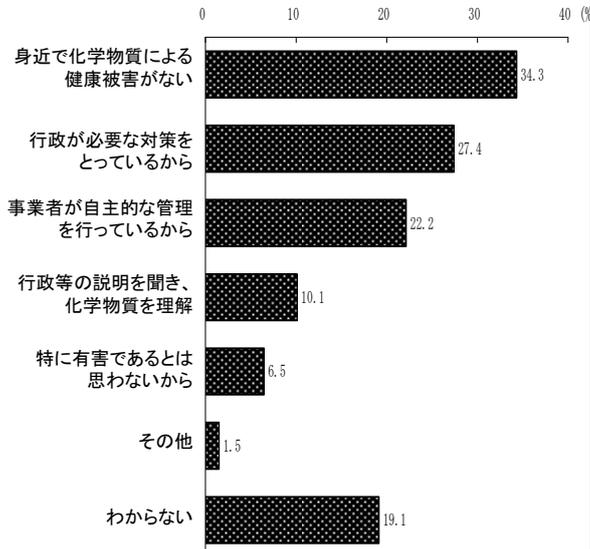


1. 身近な化学物質に対する意識

○化学物質の安全性に不安はない理由 (参考資料 P7, P27)

身近にある化学物質の安全性について、不安はないと思う理由

- 第1位:「身近で化学物質による健康被害がない」(34.3%)
- 第2位:「行政が必要な対策を取っているから」(27.4%)

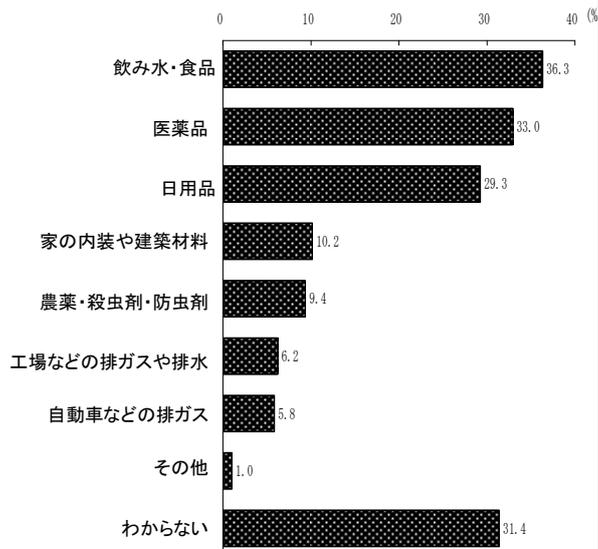


1. 身近な化学物質に対する意識

○安全性に不安はない化学物質 (参考資料 P8, P28)

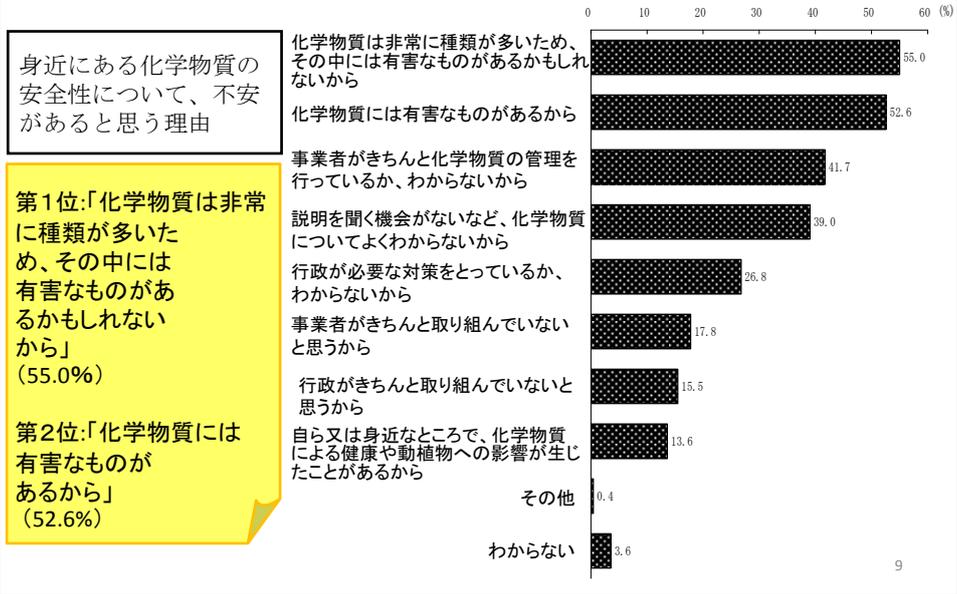
日常生活において、含まれている化学物質の安全性に不安はないと思うもの

- 第1位:「飲み水・食品」(36.3%)
- 第2位:「医薬品」(33.0%)



1. 身近な化学物質に対する意識

○化学物質の安全性に不安がある理由 (参考資料 P9, P28)



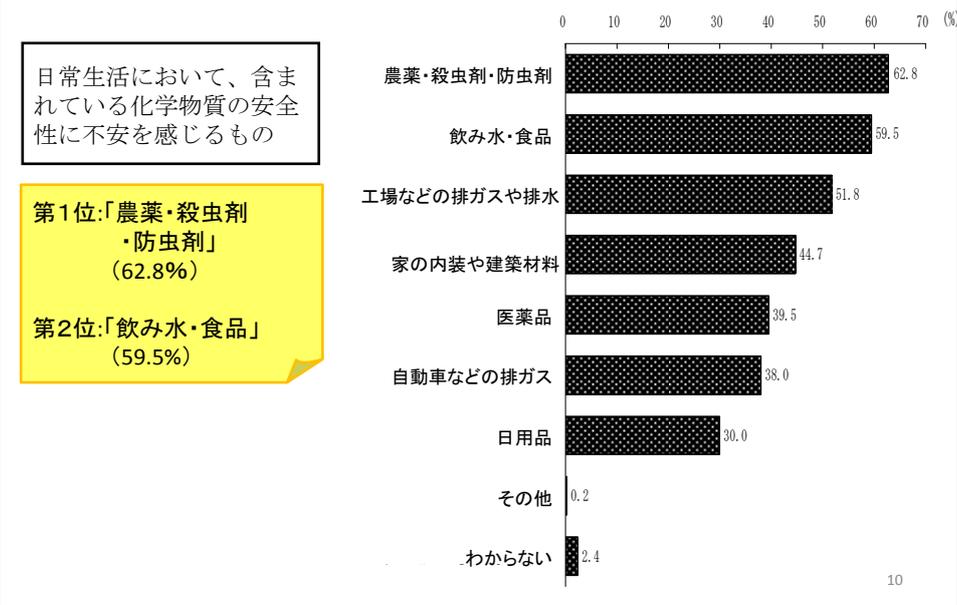
身近にある化学物質の安全性について、不安があると思う理由

第1位:「化学物質は非常に種類が多いため、その中には有害なものがあるかもしれないから」 (55.0%)

第2位:「化学物質には有害なものがあるから」 (52.6%)

1. 身近な化学物質に対する意識

○安全性に不安がある化学物質 (参考資料 P10, P29)



日常生活において、含まれている化学物質の安全性に不安を感じるもの

第1位:「農薬・殺虫剤・防虫剤」 (62.8%)

第2位:「飲み水・食品」 (59.5%)

2. 化学物質に関する取組についての意識

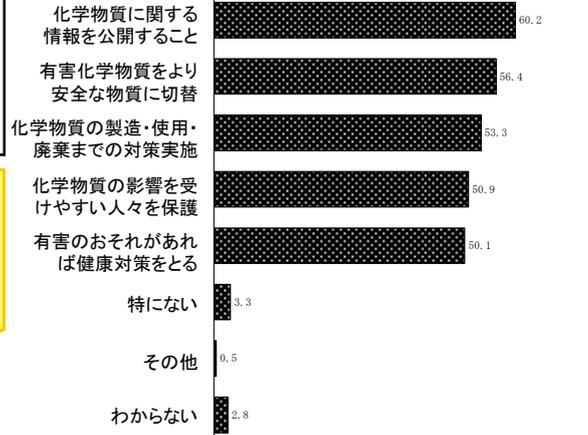
○化学物質に関する社会の取組 (参考資料 P11, P29)

(複数回答)
(%)

化学物質の管理に関する国際的な中長期目標の達成に向けて、社会全体としてどのような取組を推進することが重要だと思うか

第1位:「化学物質に関する情報を公開すること」(60.2%)

第2位:「有害化学物質をより安全な物質に切替」(56.4%)



2. 化学物質に関する取組についての意識

○化学物質に関して積極的に取り組むべき主体

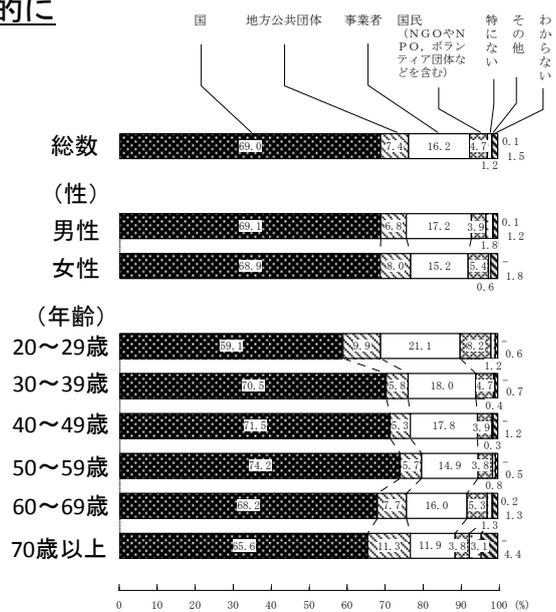
(参考資料 P12, P30)

化学物質の管理に関する国際的な中長期目標を達成するためには、どのような主体が積極的に取り組んでいくことが大切だと思うか

第1位:「国」(69.0%)

第2位:「事業者」(16.2%)

第3位:「地方公共団体」(7.4%)



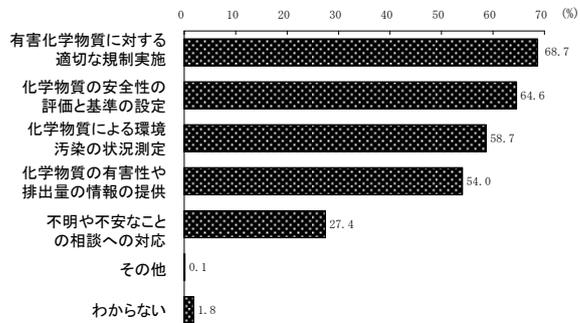
2. 化学物質に関する取組についての意識

○化学物質に関して行政が推進すべき取組 (参考資料 P13, P30)

行政が推進すべき取組は、
どのようなことだと思うか

第1位:「有害化学物質に対する
適切な規制実施」
(68.7%)

第2位:「化学物質の安全性の
評価と基準の設定」
(64.6%)



13

3. 化学物質に関する情報についての意識

○化学物質の情報の提供方法 (参考資料 P14, P30)

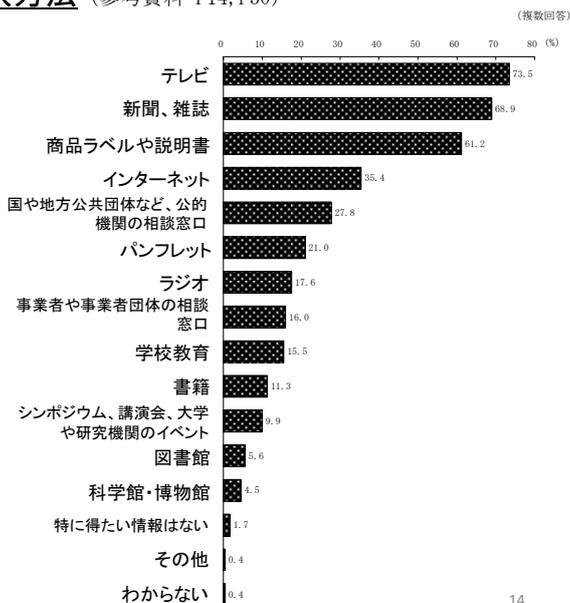
今後、身近にある化学物質の
情報を、どこから得たいと思
うか

第1位:「テレビ」(73.5%)

第2位:「新聞、雑誌」
(68.9%)

第3位:「商品ラベルや説明
書」(61.2%)

第4位:「インターネット」
(35.4%)



14

3. 化学物質に関する情報についての意識

○物品に表示された化学物質に関する情報の把握

(参考資料 P15~P18, P31)

物品を初めて購入や消費・使用する際、それに含まれる成分や使用上の注意などのラベルや説明書に表示された化学物質に関する情報を読むか

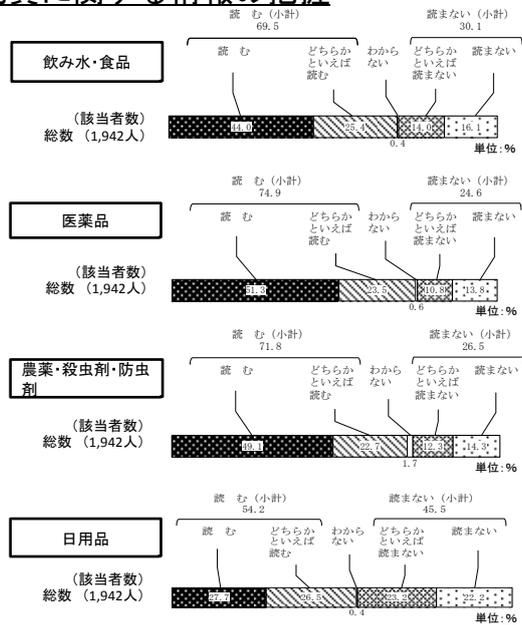
読むとする者の割合
 (「読む」、「どちらかといえば読む」の合計)

飲み水・食品: 69.5%

医薬品: 74.9%

農薬・殺虫剤・防虫剤: 71.8%

日用品: 54.2%



3. 化学物質に関する情報についての意識

○物品に表示された化学物質に関する情報 (参考資料 P19~P21, P31)

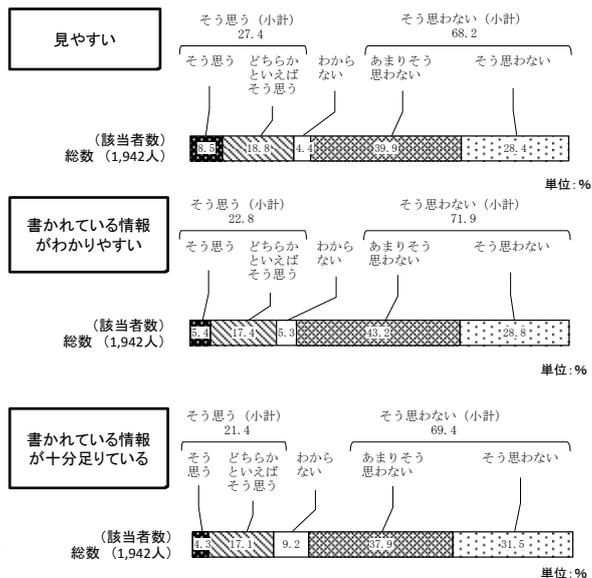
日常生活の中で消費・使用する物品のラベルや説明書に表示された化学物質に関する情報について

「そう思う」とする者の割合
 (「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計)

見やすい: 27.4%

書かれている情報がわかりやすい: 22.8%

書かれている情報が十分足りている: 21.4%



4. 国内実施計画策定への参加意向

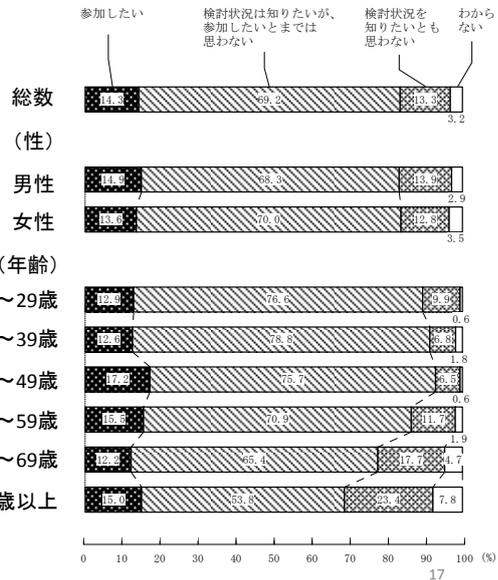
○国内実施計画策定への参加意向 (参考資料 P23, P32)

国内実施計画(※)を作るに当たって、インターネットや対話の場を通じて、意見や要望を出すことができるとしたら、参加したいと思うか

(※)我が国の化学物質の対策について、その実施の状況を国内外の関係者に示し、関係者の取組を関係省庁が連携して確実に実施するため、国内の実施計画を作成することとなっている。

「参加したい」:14.3%

「検討状況は知りたいが、参加したいとまでは思わない」:
69.2%



5. 開発途上国への日本の協力

○開発途上国への日本の協力 (参考資料 P24, P33)

国際的な化学物質の対策を進めるために、日本はどのような協力を行う必要があると思うか

第1位:安全性に係る情報を日本と途上国で共有 (64.4%)

第2位:途上国の政府職員や民間人を育成する (50.8%)

